

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	海野宿にぎわいづくり事業
事業主体 (連絡先)	海野宿保存会 会長 宮下 知茂 東御市本海野 1098 (海野宿歴史民族資料館)
事業区分	(5) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	903,159 円 (うち支援金: 626,000 円)

事業内容

■シンポジウムの実施

「海野宿の保存」をテーマにした講演会開催及びビジョン作成

- ・次世代が海野宿への愛着や誇りを高め保存への意識づくりを高めるための、きっかけづくりの講演会を開催しワークショップや意見交換を行い、ビジョンを作成することが出来た。

講演会開催: 平成27年6月27日

講師: NPO 法人「夢空間松代のまちと心を育てる会」
香山篤美氏

演題: 「歴史的文化遺産を活用したまちづくり」

参加者: 重要伝統的建造物群保存地区住民 47名

ワークショップ開催: 平成27年7月23日 21名

話し合い3回開催: 平成27年9月25日、10月3日
12月19日

ビジョン作成: ワorkshopや話し合いの内容を「海野宿にあったらいいな」のビジョンにまとめた。

■海野宿ひな祭りの実施

文化を継承するひとつとして、海野宿の32軒(昨年30軒)に協力をいただき海野格子越しに江戸から平成のひな人形を飾りつけ、ひな祭りを開催した。

地元の子どもの手の手を借りながら稲の花(物づくり)100本を作成し、海野宿全世帯に飾り付けを行うなど、早春の海野宿を地域も楽しみながら来宿者におもてなしを行うことができた。

お祭り期間中に2日間行った歓迎イベントでは、1,800人分の甘酒やあられをふるまい、地元や来宿した子供に折紙でひな人形を作成し、街道の中心の川で流し雛を開催した。また夜には、街道に灯籠を並べ、一夜限りのライトアップ、また供養後のお雛様400ヶをJAより譲り受け陳列することにより好評を得た。

なお、ポスターやリーフレットを作成してPRを行ったほか、新聞広告への掲載や長野放送「土曜は、これだね!」の取材がありお祭りを盛り上げた。

【開催期間】平成28年2月27日(土)~3月13日(日)

【講演会】



【ワークショップ】



【歓迎イベント】



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①地域住民の一体感及び地域づくりの意識の醸成

シンポジウム・ひな祭りとも、実行委員に応募があった地域の若者と一緒に準備を行い、幅広い年代で取組んだ事業となった。

海野宿は昭和62年に重伝建に選定され以来、ハード面においては整備がされて来たが、今後どのようにしていけば景観が維持され後世に残していけるのかの、話し合いがなく今にいたっていましたが、シンポジウムにより先進地の取り組みの講演を聞き、ワークショップを行い話し合いをすることが初めてできた。このことで課題をはっきりさせ共通することができ、また内容を区民に回覧することにより参加者以外にも周知することができた。

ひな飾りは、昨年より2件増え参加者からは「雛人形を何年も出してなかったが、出す機会をつくってもらって嬉しい」との声をいただいた。また、子供たちと海野宿全体に物作り(稲の花)の飾りつけを行い、街道の中央の川で流し雛をおこなって、来宿した子供たちにも楽しんでもらい、海野宿を体験することが出来た。

今回も海野宿以外の地域の方からの雛人形の提供があり、また期間中にも問合せがあり、周辺地域への波及効果が期待できる。

②海野宿を訪れる観光客の増加

冬季観光客入り込み数の増加:

H26年 2月 2,900人 3月 8,500人

H27年 2月 3,600人 3月 10,500人

H28年 2月 9,700人 3月 16,800人

※2・3月入込前年比 H27年 124%、H28年 188%



【流し雛作成中】



【目標・ねらい】

- ① 地域住民の一体感及び地域づくりの意識の醸成
- ② 海野宿を訪れる観光客の増加

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・2、3月の観光客の入込み数が前年比 H28 188%
- ・幅広い年代が参加した事業となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今までこの時期は何もない海野宿であったが、ひな祭りは、観光バスで大勢の観光客が来宿しても楽しめるイベントになった。今後は地域ばかりでなく旅行会社に呼びかけ、ひな祭りをツアールートに組み込むよう取組みたい。今後も地域住民を中心として一緒に活動してくれる人を増やすことで、飾るひな人形を増やし、おもてなしイベントを充実させ、年中行事として毎年開催する海野宿の一大イベントとしたい。

講演会・ワークショップを行うことで「将来どのような海野宿にしていけば保存がされるか。」初めての話し合いを行い「海野宿にあればいいな」のビジョンを作成することが出来た。

今後は、このビジョンを実行するための区の組織変えに取り組み、2025年開宿400年を目指して、海野宿を中心に地域を盛り上げたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある